まい あーと・モザイク画「ブルガリアの少女」by 田辺萠子

Once Upon A Time . . .

立川・今昔写真館

●監修／三田鶴吉　●写真提供／三田鶴吉・立川市歴史民俗資料館

年々歳々、「街」同じからずであります。南口のように、区画整理で「変革」をとげている場合は勿論だが、なにげない日々に、「昨日の立川」にはない表情を、ひょっこりと見せたりする。しかも、立川は年々に若がえってゆく、この不思議を解ける人はおるまい。

▲立川駅南口／昭和５年

「中央線山中眼鏡橋」馬場吉蔵画
▼〔立川村十二景〕より／明治の頃

▼立川駅北口郵便局、日通前の通り/大正11年

◀立川駅北口（千本桜がある）明治40年頃

立川駅北口ロータリー▶ 昭和30年頃

立川警察署前▶の交差点／昭和39年頃

砂川三番の交差点 昭和36年頃 ▼

◀立川駅北口第一デパート前の通り／昭和30年頃

高松大通り（拡幅工事中）昭和28年頃▼

『甲州街道多摩川渡し雪景』〔立川村十二景〕より／明治の頃。▶
現在は立日橋を建築中。

冬の祭り

～二小の生徒たち　ワッショイ・ワッショイ～

子供たちの感性を存分に生かした〝祭り〟が立川第二小学校でおこなわれ、話題をよんだ。

実は「展覧会」なのだが、さながらホンモノの〝祭り〟を彷彿とさせる、気分の高まりが体育館にみなぎっていたのだった。

▲紙版画で豊かな祭りの表情を　▲「ねぶた」の作品前で喜びの児童たち

去る一月三十一日と二月一日、さらに二月三日まで一般に公開されたこの展覧会が、なかなかの評判をよんだ理由を、第二小学校々長・高見澤豊榮先生はこう語りだした。

「うちの子供たちは高松町を中心に、お祭りの時など、お囃子に参加したり、金管バンドのパレードに出て地域から学ぶべきものは学んでいるように思うのですが、更に積極的になる一助となればと考えたのです。全国の祭りを通して〝日本人の心〟がわかってもらえればとの願いからこのテーマを――」。

子供たちの躍動感、眼の輝き。指導に当った武田悠紀子先生は、――父兄に見て頂くのは二の次、子供たちが作品に没入する。完成の満足感を子供たちに味あわせてあげたかった、と語る。

個人作品としての完成度もさることながら、個と個が響き合う〝調和〟を武田先生は大切にしてきた。子供たちは展示の人形のあとに続いて踊りだしたという。人形が完全に人間となり、〝祭り〟の場をかりてのメルヘンランドが造られていった。

この〝達成感〟を子供たちはどう受けとめて、生かしてゆくだろうか。

▲粘土「みこしをかつぐ人」で心の躍動を

本の紹介

Book

いい本をご紹介しよう。『高尾山』――身近な自然を考える――編者は駅ビル「ウィル」9Fに編集室をもつ「アサヒタウンズ」。地元を見つめた久々の好著だ。

▼朝日ソノラマから　一、〇〇〇円

アサヒタウンズ記者の酒井喜久子さんが一年近くの取材活動、50回にわたる連載記事をまとめて一冊にまとめあげた労作。

いく人かの立川人に目を通してもらった。答は一様に、――高尾山って、なかなか深いんですね。

ここでいう「深い」にはいろいろな意味が含まれていよう。

本書では高尾山の自然と人についてふれてゆき、読み進むうちに、手近ゆえに見落していた自然の美しさ、この名山が多摩の一角をしめている誇らしさに読者は引き込まれてゆくにちがいない。

そしてここにも都市化がおしよせ〝圏央道〟の問題にまで言及し、〝自然保護問題〟の存在価値を訴えている。

表紙は語る

いかにも〝春〟を連れてきてくれそうなモザイク画〝ブルガリアの少女〟の作者は田辺朋子さん。

「ブルガリアには一年半ばかり、仕事で行っていたんです。でも、この画は写生じゃなく、帰ってきてからの印象をえがいてみたんです。どうかしら？」

昨年、アサヒギャラリーで「ペガの会」の展覧会があった、その時に出品したもの。本誌の昨年10月号の表紙を飾った土肥邑子さんに手ほどきを受けて、もうじき二年になるそうだ。

「ある個展で土肥先生にお会いして、すっかり先生のお人柄、作品のセンスに魅了されてしまいましてね。私はまだカケダシですから、人さまの前に出せるような作品じゃないんです」

いま、料理の勉強にも夢中とか。ともに〝センス〟が勝負の世界だけに双方からいい影響を与えあうのではないかと――。

漢字テスト⑭

空欄に一字押入を試みよ。

烏 白 □ 角

一 暴 □ 寒

立川のモニュメント②　尾張殿鷹場

高さ80㎝ほどの石づくりの杭が、歴史民俗資料館（富士見町）の庭にある。「尾張公御鷹場境杭」と呼ばれるその石杭には「是より川上羽村川向杭 尾張殿鷹場」と刻まれ、江戸時代、立川が尾張公の御鷹場（鷹狩りをする場所）であったことを示している。

江戸初期、盛んに行われた鷹狩りは、将軍綱吉の生類憐令により一度は廃止された。が、吉宗の時代に再度復活。多摩川の北から埼玉・入間のあたり、約20㎞四方に渡って尾張公鷹場の指定がされた。

これは農民にとっては、すこぶる迷惑なことで、このため「伝馬人足の供出」や「新しい家を造る制限」など、規制を幾つも受けなければならなかった。

例えば、案山子を作るのにも苦労したようで（鷹場内で耕地はできるが、鳥を驚かせてはならないという決まりがあった）、その願い書も残されている。

肝心の尾張公は、初期をのぞいてほとんどおでましにならなかったそうだから、農民にとっては何のためのお鷹場だったのか。ともあれ、鷹場の境を示す杭も、今は一本が現存するだけだ。立川には、貝から坂、角、上の原の三箇所にあったと古文書には、記されている――。

風にあたり、雨にうたれ、石は、なおも飛翔する鷹を見つめてきた。境杭としての役目を終え、今は何を思うのだろうか。

☆「尾張公御鷹場境杭」鷹場の境を示す杭。東大和市在住の内野家文書「御鷹場御境杭控帳」によると、文政四年、尾張家の鷹場境杭は八十三本あった。

現在、民俗資料館内にある杭は、富士見町の五十嵐氏が所有していたもの。が、五十嵐氏の死去に伴い、その由来については、一切、不明になってしまった。（H・H）

本の当選者発表！

『ベスト立川人・展』で著者より寄贈された本を、抽選により次の方々にお送り申し上げました。ご応募、多謝。

『星条旗の蔭で』

- ▼浜村　昭子様（小金井市本町）
- ▼林　恭子様（稲城市押立）
- ▼酒井久美子様（市内栄町）
- ▼吉見　薫様（八王子市狭間町）
- ▼野々垣幸子様（市内砂川町）
- ▼佐藤　潮様（青梅市師岡町）
- ▼吉澤　知子様（市内栄町）
- ▼長沢　美子様（市内曙町）
- ▼平山　公弥様（昭島市玉川町）
- ▼森田　敏子様（市内砂川町）

『思い込み男のこだわり家政百科』

- ▼大野　正身様（市内一番町）
- ▼深沢　亘様（市内若葉町）
- ▼宇野　道子様（市内錦町）
- ▼伊藤　明夫様（杉並区本天沼）
- ▼野々垣律子様（市内砂川町）
- ▼森　英昭様（市内柴崎町）
- ▼藤山スミカ様（市内富士見町）
- ▼加藤　紀久様（市内柴崎町）
- ▼関本トシ子様（市内富士見町）
- ▼阿部まり子様（小金井市東町）

真如苑だより

眼のさめるような花がもうじき咲こうとしています。あの辛夷（こぶし）の花が。立川の街々にことのほか、春を感じさせてくれます。今月もまた、皆さまのご来苑、お待ちしております。いつもの春より暖かく。

■日時　3月14日㈯　午後2時～4時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■立川市民（成人）に限らせて頂きます。

■お申し込みは「えくてぴあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

漢字テスト・答

烏（う）白（はく）馬（ば）角（かく）

烏の頭が白く、馬に角がはえることは絶対にない。ありえないことのたとえ。

一（いち）暴（ばく）十（じっ）寒（かん）

一日暖めて十日ひやす、の意。一日勤勉で十日怠慢では成果はのぞめないことのたとえ。

工房から

●学問の中で最高のそれは「歴史学」だと誰かが言った。学には及ばないが、「歴史」なら、それぞれに興味をおもちだろう。国の歴史、音楽の歴史、わが家の歴史。立川の歴史に興味ある人、手をあげて。あれえ、たったそれだけ？●立川二小の「展覧会」は、なによりも子供たちがノリにノッていた。会場からその空気が伝わってくるのだ。「祭り」だもの。コーフン第一ですよ。●今年の2月はオカシナ天候続き。雪が降ったかと思えば、六月なみの「暑さ」がおそってきたりして。こういう年に梅や桜はどのように対処したら、よろしいのでしょうか。われら、いかに咲くべきか。本誌では来月号で桜がパーッと咲きます。●春の海　けぶるあしたに　えくてぴあん。

（編集）秋山光久　石塚敦美　大野玲子　神山清子　鵜川亜　田中恵子　原田礼子　東島弘子
（写真）天野武男　板橋一明　吉田義治　スタジオ269

月刊えくてぴあん　第32号
昭和六十二年三月一日　発行
発行所　えくてぴあん編集工房
東京都立川市柴崎町2-4-11　ファインビルディング　3F
電話　〇四二五(28)〇〇八二
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　株式会社　立川印刷所

立⑨川
ごちそうかん
御馳走館
創る人がいて、味わう人がいる。この華麗なる当り前の世界。
リーセントパークホテル
(左)仔羊のノワゼット エストラゴン風味 ¥3,000 (右)三種の魚のポワレー 赤ワイン風味 ¥3,400
ほかに、ランチ・スペシャル（コース）¥2,500 など
昨秋、生まれたばかり
のリーセント・パークホテル2Fに
「イル・モンド」という、おしゃれで本
格的フランス料理が登場、味にうるさい貴
方の「評価」を待っている。嶋田ジェフがパリできた
えた腕を、立川で花開かんとする志を達成させるのも
また「立川人」と云えようか。富士見町2丁目 ☎26－3111㈹
華麗なデセール（デザート）から
(左)グラン・デセール ¥1,000 (右)ドゥー・ムース ¥500